

長野県

子どもと子育て家庭の生活実態調査

調査結果の概要

平成30年5月

長野県県民文化部

☆子どもと子育て家庭の生活実態調査



調査の概要

- 1 調査対象 小1、小5、中2、16~17歳（高2相当）の子どもとその保護者 各3,000世帯（ただし、小1は保護者のみ）
- 2 調査方法 住民基本台帳から対象世帯を無作為抽出し、郵送により調査票を配布・回収
- 3 調査期間 平成29年8月10日から9月25日まで
- 4 有効回答 子ども 2,366件（26.3%）、保護者 3,589件（29.9%）

調査の特徴

次の3要素から調査対象の家庭を「困窮家庭」「周辺家庭」「一般家庭」に分類※して分析した県で初めての調査

※首都大学東京の阿部彩教授による分類

①世帯の可処分所得（右表の所得）

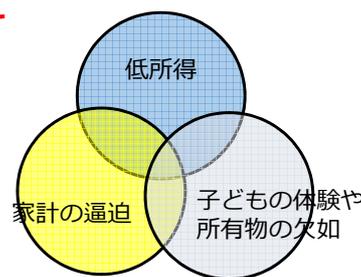
世帯人員	世帯可処分所得
2人	175万円未満
3人	210万円未満
4人	245万円未満
5人	275万円未満
6人	300万円未満

②家計の状況

- ・ 経済的理由による公共料金等の滞納
- ・ 食料・衣類を買えなかった経験が1つ以上

③子どもの経験・所有物

15項目中、経済的理由で欠如する項目が3つ以上（海水浴、家族旅行、習い事、学習塾・通信教育年齢に合った本、自宅で勉強できる場所など）



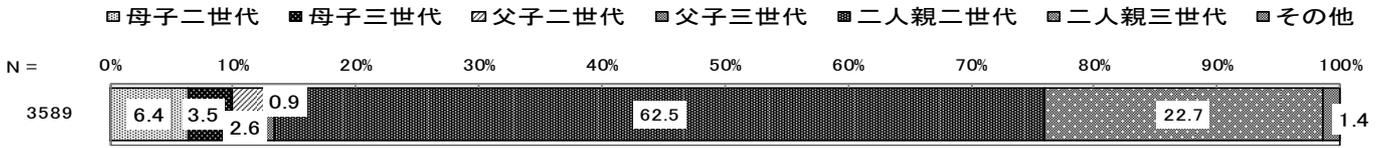
困窮家庭	2つ以上の要素に該当
周辺家庭	いずれか1つの要素に該当
一般家庭	該当する要素なし

☆世帯状況

[世帯状況]

- 世帯構成では、「二人親二世帯」が62.5%と多く、「二人親三世帯」が22.7%である。母子または父子のひとり親の世帯は二世帯・三世帯世帯をあわせて13.4%である。

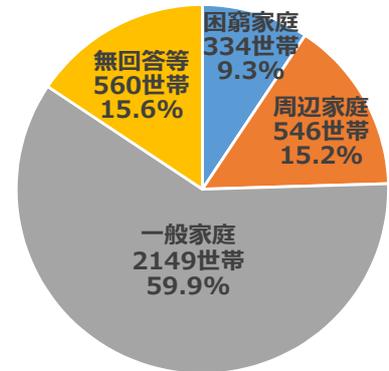
世帯構成[%]



[生活困難家庭の割合]

- 全体では、「一般家庭」が59.9%を占めており、「周辺家庭」が15.2%、「**困窮家庭**」が**9.3%**である。

困窮家庭 9.3% (334世帯/3589世帯)
 周辺家庭 15.2% (546世帯/3589世帯)
 一般家庭 59.9% (2,149世帯/3589世帯)



☆家計の状況

[お金が足りなくて食料・衣料を買えないこと]

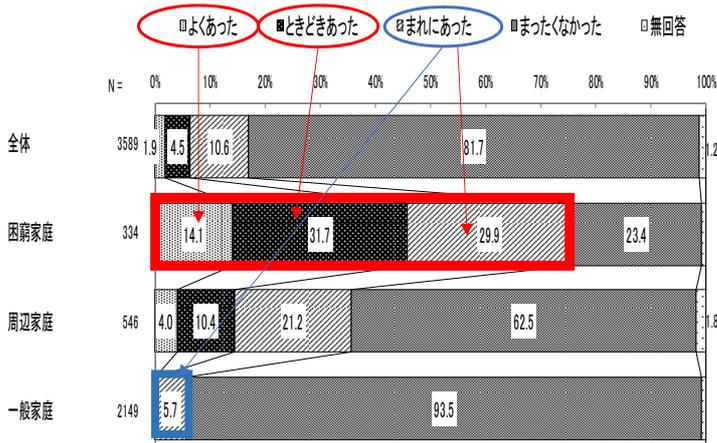
- 過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要なものが買えなかったことが「あった」※1という回答は、**困窮家庭で7割を超えている。**

・食料を買えないことがあった **困窮家庭：75.7%** > **一般家庭：5.7%** ※2
 ・衣類を買えないことがあった **困窮家庭：90.1%** > **一般家庭：8.6%** ※2

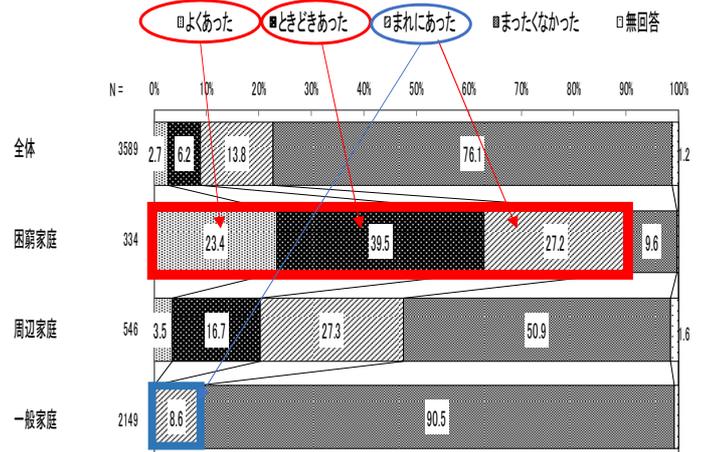
※1 「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」の合計

※2 一般家庭では「よくあった」、「ときどきあった」の回答は0。

お金が足りなくて食料を買えないこと[%]



お金が足りなくて衣類を買えないこと[%]





[経済的な理由のために世帯にないもの]

○ 家電製品、子ども用品など**15項目**について経済的理由のために世帯にないものを尋ねたところ、一般家庭で「あてはまるものはない」が68.6%だったのに対し、困窮家庭では「急な出費のための貯金（5万円以上）」が66.2%など、**多数の項目で世帯にないものがあると回答されている。**

	1位	2位	3位	4位	5位
全体	あてはまるものはない (58.4%)	無回答 (13.5%)	急な出費のための貯金（5万円以上） (13.0%)	新聞の定期購読（インターネット含む） (11.9%)	インターネットにつながるパソコン (9.1%)
困窮家庭	急な出費のための貯金（5万円以上） (66.2%)	新聞の定期購読（インターネット含む） (38.6%)	インターネットにつながるパソコン (29.9%)	子どもが自宅で宿題をすることができる場所 (24.0%)	子どもの年齢に合った本 (23.7%)
周辺家庭	あてはまるものはない (42.3%)	急な出費のための貯金（5万円以上） (22.2%)	新聞の定期購読（インターネット含む） (20.3%)	インターネットにつながるパソコン (16.5%)	無回答 (8.8%)
一般家庭	あてはまるものはない (68.6%)	無回答 (14.8%)	新聞の定期購読（インターネット含む） (6.9%)	インターネットにつながるパソコン (4.9%)	冷房機器 (2.8%)



[子どもに体験させていること]

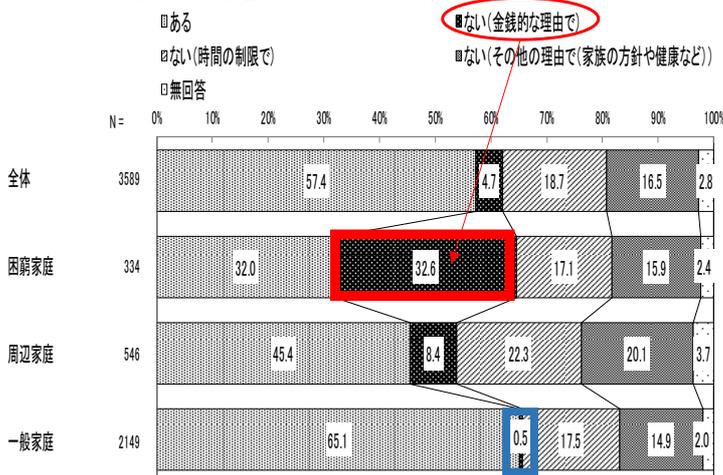
○ 過去1年間に、子どもに博物館に行くなどの体験をさせているかという質問では、**困窮家庭では「金銭的な理由でさせていない」という回答が多くなっている。**

「金銭的な理由で体験させていない割合」

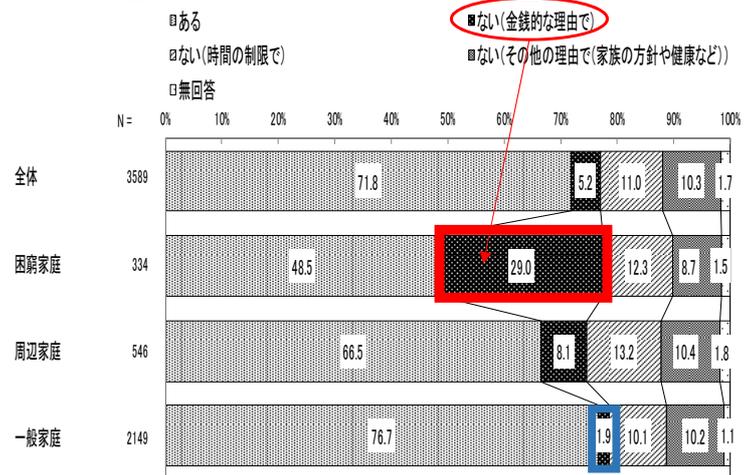
- ・ 博物館・科学館・美術館などに行く
- ・ 映画に行く

困窮家庭：32.6% > 一般家庭：0.5%
 困窮家庭：29.0% > 一般家庭：1.9%

博物館・科学館・美術館などに行く(%)



映画に行く(%)



☆子どもの貧困の現状

注目①：子どもの生活習慣に影響を与えている

【食生活】

○ 「平日に毎日朝ご飯を食べるか」という質問では、**困窮家庭は15%以上が食べない日があると回答している。**

・平日に朝食を食べない日がある※1 **困窮家庭：15.1%** > **一般家庭：4.8%**

※「食べるほうが多い(週に3~4日)」と「食べないほうが多い(週に1~2日)」と「いつも食べない」の合計

○ 困窮家庭では、給食以外で野菜や果物を「食べない」※2との回答がやや多い。

・野菜を食べない **困窮家庭：11.0%** > **一般家庭：8.0%**

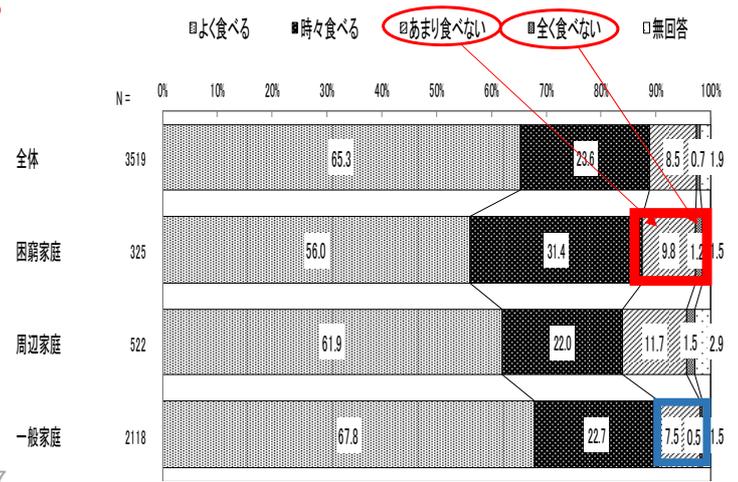
・果物を食べない **困窮家庭：19.1%** > **一般家庭：12.4%**

※2「あまり食べない」と「全く食べない」の合計

平日の朝食の頻度[%]
 ■いつも食べる(週に5日)
 ■食べるほうが多い(週に3~4日)
 ■食べないほうが多い(週に1~2日)
 □無回答



野菜[%]
 ■よく食べる
 ■時々食べる
 ■あまり食べない
 ■全く食べない
 □無回答



7

【放課後等の過ごし方】

○ 「ゲーム機で遊ぶ」頻度について尋ねたところ、困窮家庭ほど長時間の回答※が多くなっている。一方、「室内遊び(トランプ、工作など)」の頻度は、困窮家庭ほど長時間の回答が少なくなっている。
 ※「毎日2時間以上」と「毎日1~2時間」の合計

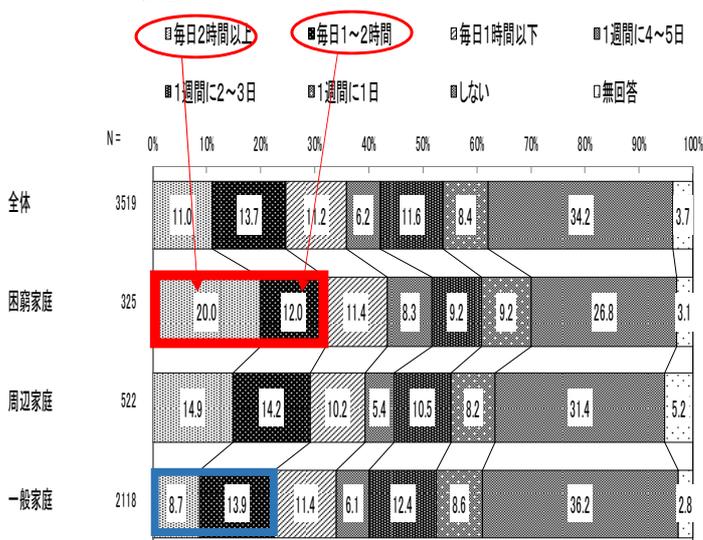
・毎日1時間以上ゲーム機で遊ぶ **困窮家庭：32.0%** > **一般家庭：22.6%**

・毎日1時間以上室内遊びをする **困窮家庭：14.2%** < **一般家庭：21.2%**

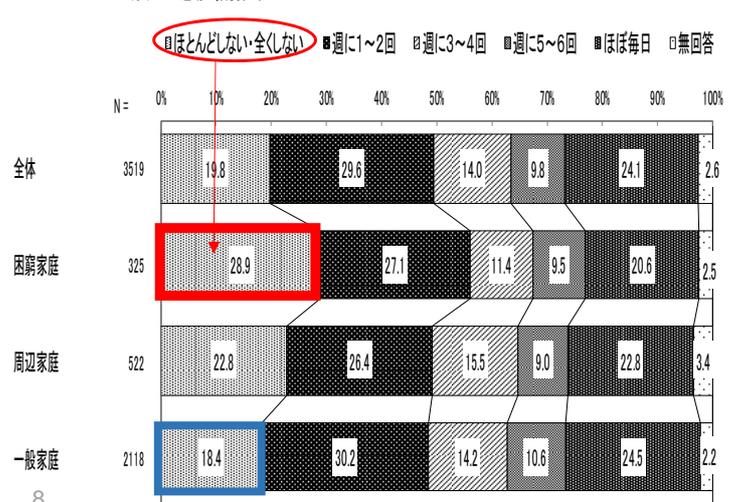
○ 「30分以上のからだを動かす遊びや習い事」の頻度は、困窮家庭では「ほとんどしない・全くしない」が28.9%と、一般家庭に比べて多くなっている。

○ **困窮家庭では、放課後の過ごし方の選択肢が限られていることがうかがえる。**

ゲーム機で遊ぶ[%]



30分以上の運動の頻度[%]



8

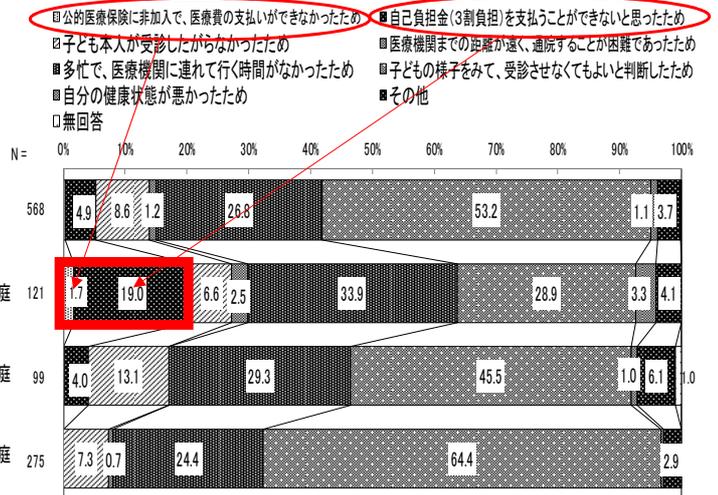
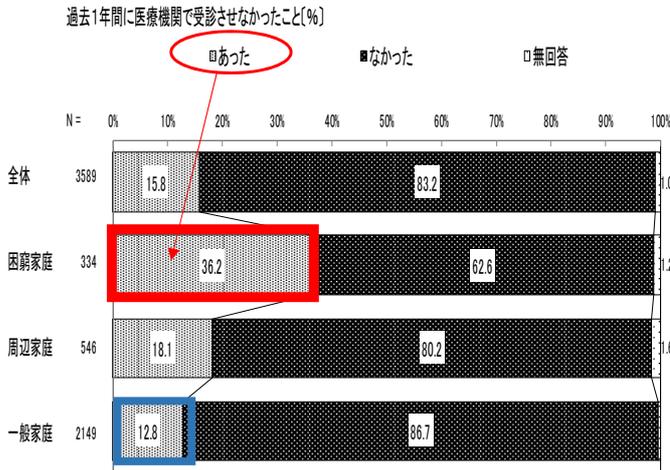
☆子どもの貧困の現状

注目②：子どもの健康面に影響を与えている

[医療機関で受診できなかったこと]

- 「過去1年間に、子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが実際には受診させなかったことがある」という回答は、**困窮家庭では、一般家庭より20ポイント以上高い。**
- 「過去1年間に、子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがある」家庭のうち、**困窮家庭では経済的理由（公的医療保険に非加入、自己負担金の支払い困難）が20.7%に達している。**

医療機関を受けさせなかった理由(%)



調査回答3,589世帯中

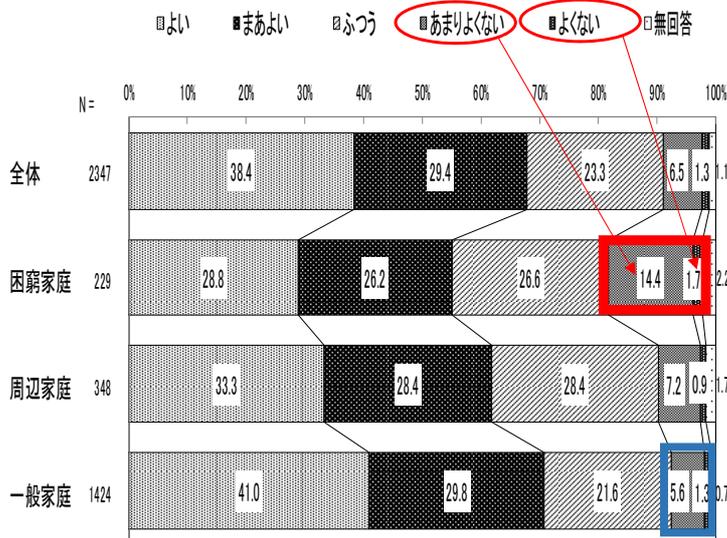
- 公的医療保険非加入のため、医療機関で受診させなかった 2世帯 (0.056%)
- 自己負担金(3割負担)を支払うことができないと思ったため 28世帯 (0.81%)

9

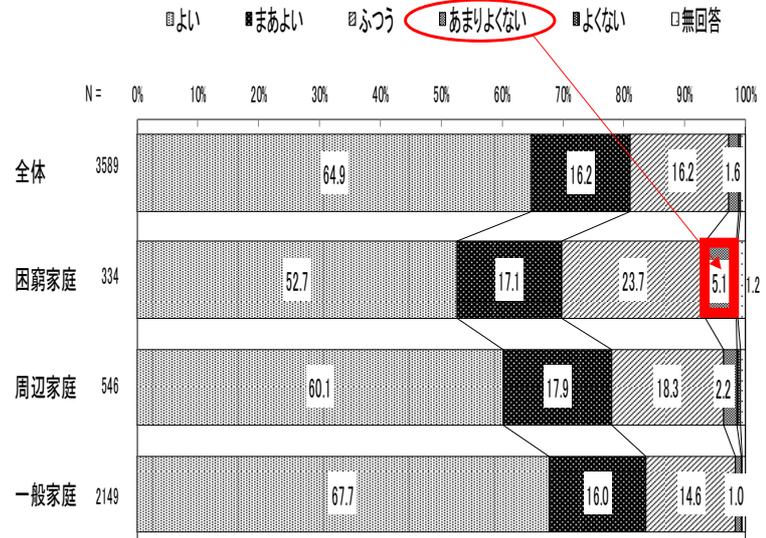
[子どもの健康状態]

- 子どもが感じている自分の健康状態は、全体では「よい」と「まあよい」が67.8%だが、困窮家庭は55.0%と少ない。
 ・ **よくない※ 困窮家庭：16.1% > 一般家庭：6.9%** ※「あまりよくない」と「よくない」の合計
- 保護者から見た子どもの健康状態は、子ども自身の回答に比べて「よい」が多く、「よくない」が少ない。

子ども自身が感じる自分の健康状態



保護者から見た子どもの健康状態



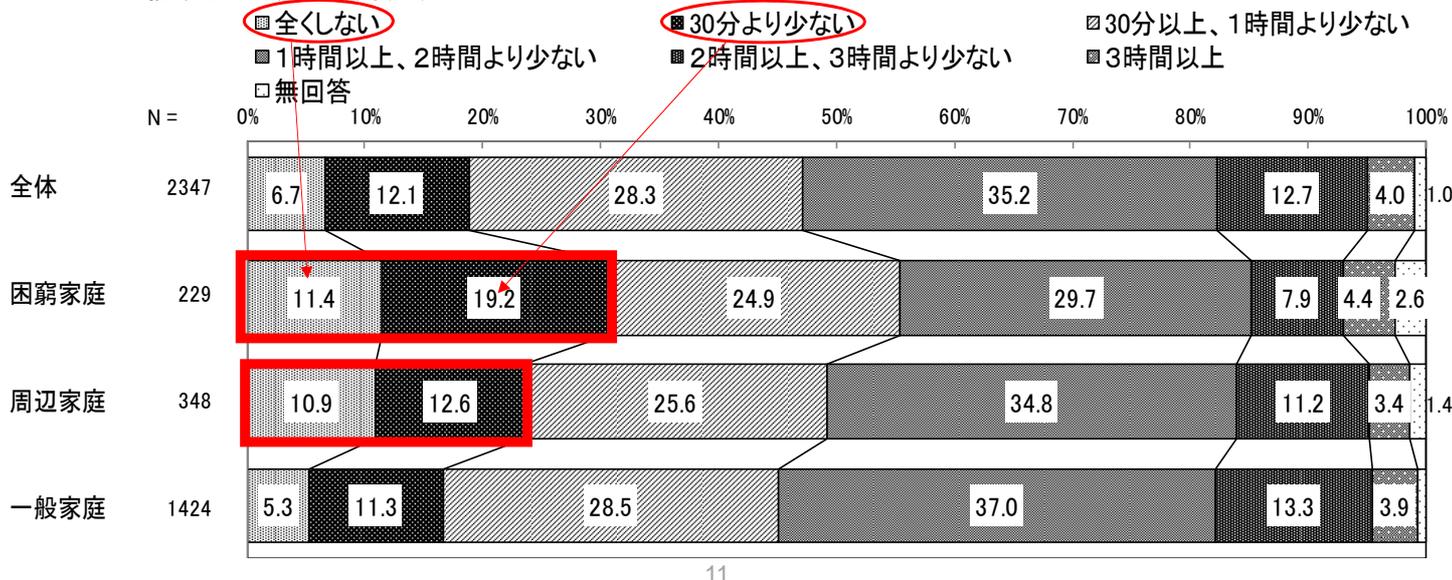
☆子どもの貧困の現状

注目③：子どもの学習面に影響を与えている

【授業以外の勉強時間】

- 困窮家庭及び周辺家庭では「全くしない」「30分より少ない」の合計が20%を超えている。困窮家庭では30.6%と約1/3を占めており、学習習慣が身に付いていないおそれのある子どもの割合が高い。

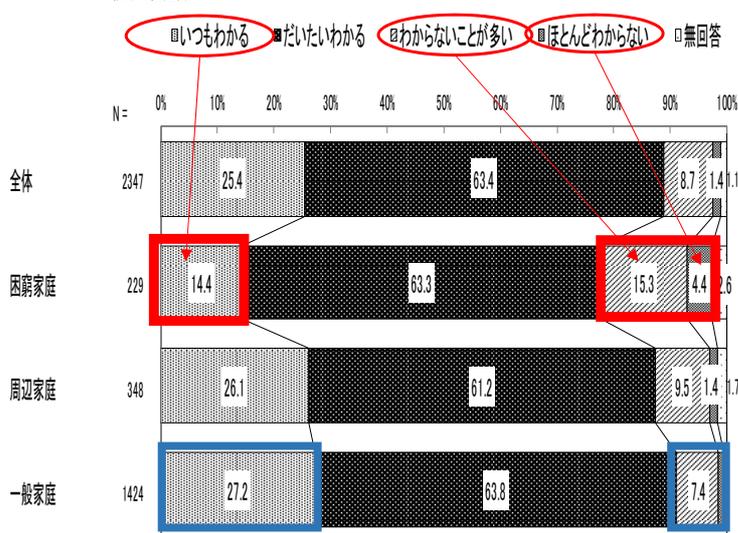
授業以外の勉強時間[%]



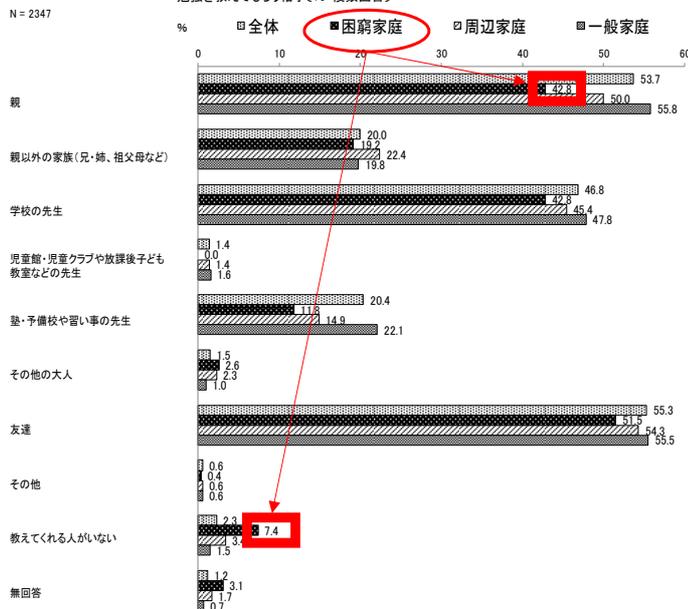
【授業の把握度・勉強を教えてもらう相手】

- 授業の把握度を尋ねたところ、困窮家庭では「いつもわかる」が14.4%と少なく、「わからない」※が19.7%と多い。
 ※「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」の合計
 - ・いつもわかる 困窮家庭：14.4% < 一般家庭：27.2%
 - ・わからない 困窮家庭：19.7% > 一般家庭：8.3%
- 「勉強が分からないときに教えてもらう相手」は、困窮家庭では「親」の回答が少なく、「教えてくれる人がいない」が7.4%みられる。

授業の把握度[%]

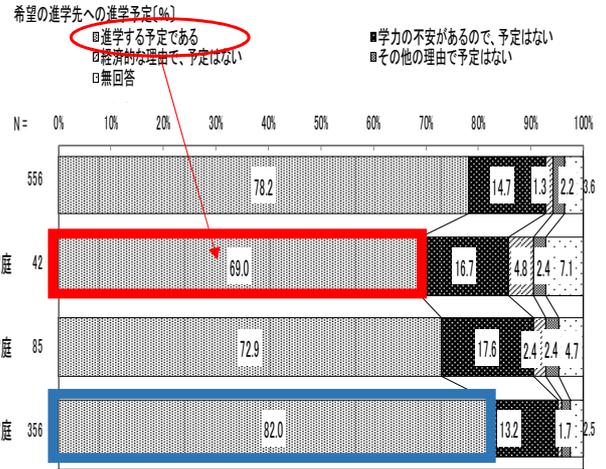
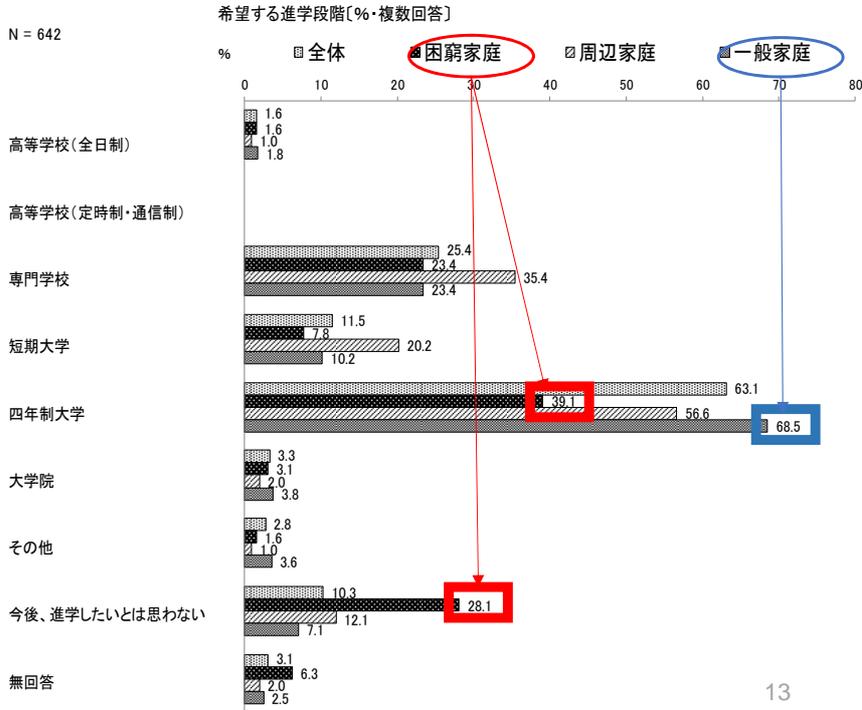


勉強を教えてもらう相手[%・複数回答]



【16～17歳の希望の進学先】

- 全体では「四年制大学」が63.1%と多いが、**困窮家庭は39.1%と少ない。**
 - ・ **四年制大学 困窮家庭：39.1% < 一般家庭：68.5%**
- 困窮家庭では、「今後、進学したいとは思わない」との回答が**28.1%**と、他の区分に比べて多く、**貧困の連鎖が懸念される傾向にある。**



困窮家庭では、高等教育機関（大学等）への進学希望が一般家庭に比べて低いとともに、進学希望が実現できると考えている割合も低い。

【希望進学先への進学予定】

困窮家庭 69.0% < 一般家庭 82.0%

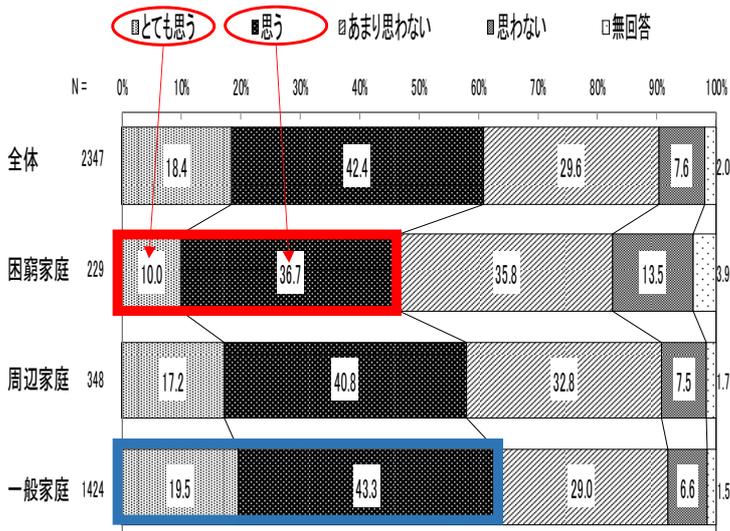
☆子どもの貧困の現状

注目④：子どもの心理面に影響を与えている

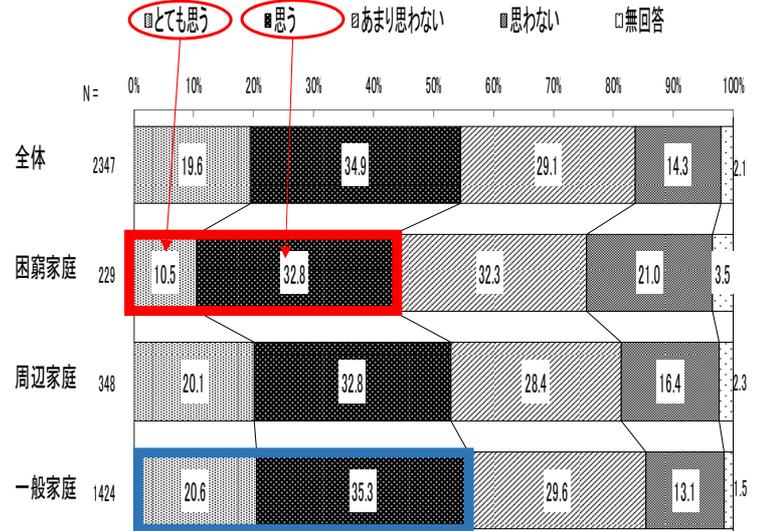
【自己肯定感】

- 「自分は価値のある人間だと思うか」などの質問に対し、**困窮家庭では「思う」※の回答が少なく、自己肯定感の低さがうかがえる。**
 - ・ **自分は価値のある人間だと思う 困窮家庭：46.7% < 一般家庭：62.8%**
 - ・ **自分のことが好きだ 困窮家庭：43.3% < 一般家庭：55.9%**
- ※「とても思う」と「思う」の合計

自分は価値のある人間だと思う



自分のことが好きだ

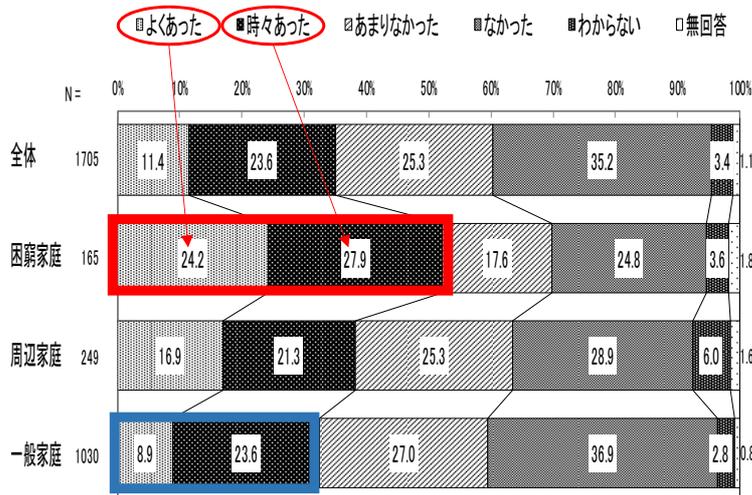




【学校に行きたくないと思ったこと・学校をやめたくなるほど悩んだこと】

- 小学5年・中学2年では、学校に行きたくないと思ったことが「あった」※が**一般家庭では32.5%**だが、**困窮家庭は52.1%と多くなっている。** ※「よくあった」と「時々あった」の合計
- 16～17歳では、学校をやめたくなるほど「悩んだことがある」が**一般家庭では29.4%**であるのに対し、**困窮家庭及び周辺家庭では40%強**に上っている。

学校に行きたくないと思ったこと（小5・中2）



学校をやめたくなるほど悩んだこと（16～17歳）



☆子どもの貧困の現状

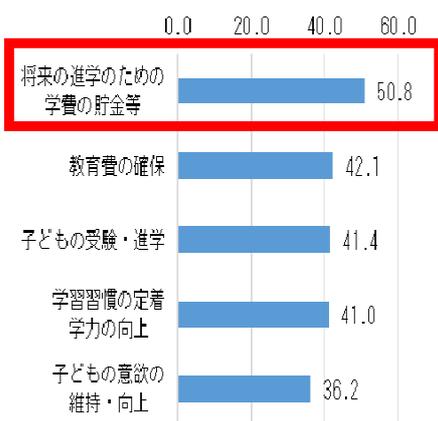
注目⑤：保護者の悩みは「教育費の負担」が大きい



【子育てで大変だと思うこと】

- 「**将来の進学のための学費の貯金等**」が**50.8%**と最も多く、「教育費の確保」「子どもの受験・進学」「学習習慣の定着・学力の向上」がそれぞれ40%台と多い。
- 大変だと思うことは、子どもの学年によって異なる。

保護者が子育てで大変だと思うこと（上位5つ） %

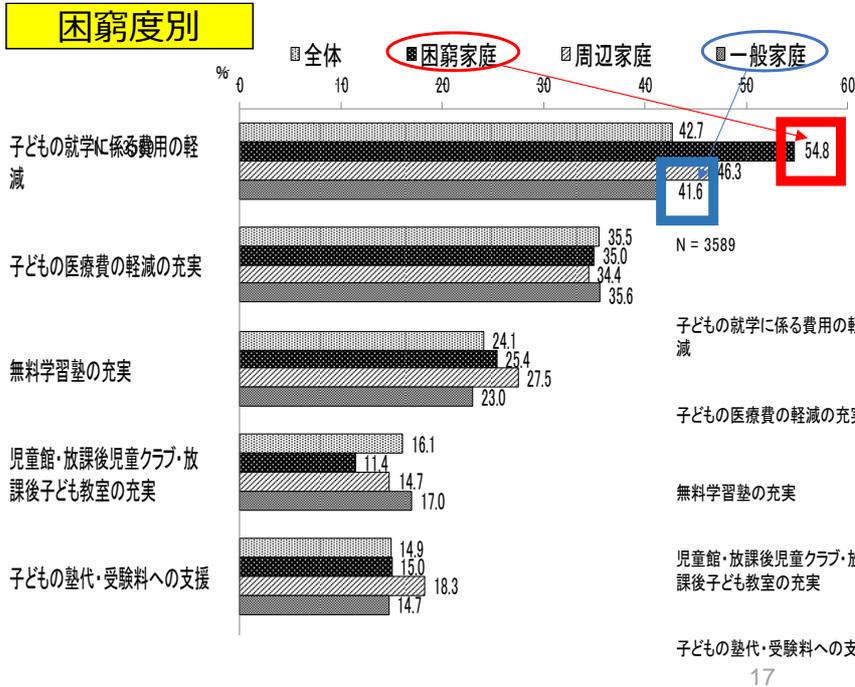


	1位	2位	3位
小1	将来の進学のための学費の貯金等 (50.2%)	子どものしつけが難しいこと (45.7%)	子どもの健康管理・食生活 (42.3%)
小5	将来の進学のための学費の貯金等 (50.2%)	学習習慣の定着・学力の向上 (42.1%)	教育費の確保 (39.8%)
中2	子どもの受験・進学 (56.2%)	将来の進学のための学費の貯金等 (50.5%)	学習習慣の定着・学力の向上 (47.3%)
16～17歳	子どもの受験・進学 (58.2%)	将来の進学のための学費の貯金等 (53.0%)	子どもの将来の就職 (52.1%)

[希望する子育て支援サービス]

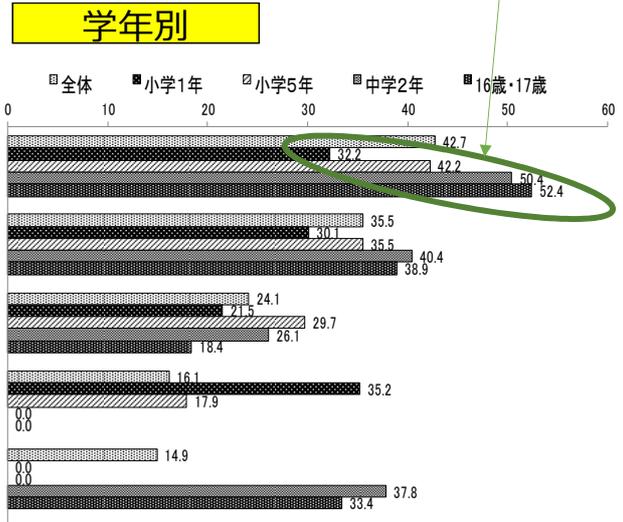
- 「子どもの就学に係る費用の軽減」、「子どもの医療費の軽減の充実」が上位を占める。
- **困窮家庭では、「子どもの就学に係る費用の軽減」が一般家庭より10ポイント以上高い。**

希望する子育て支援サービス [%・複数回答] (上位5位)



学年によって異なるニーズ

- 学年が上がるほど就学費用の軽減のニーズが高い。
- 無料学習塾のニーズは小5が最も高い。
- 塾代等への支援は中2、16~17歳でニーズが高い。

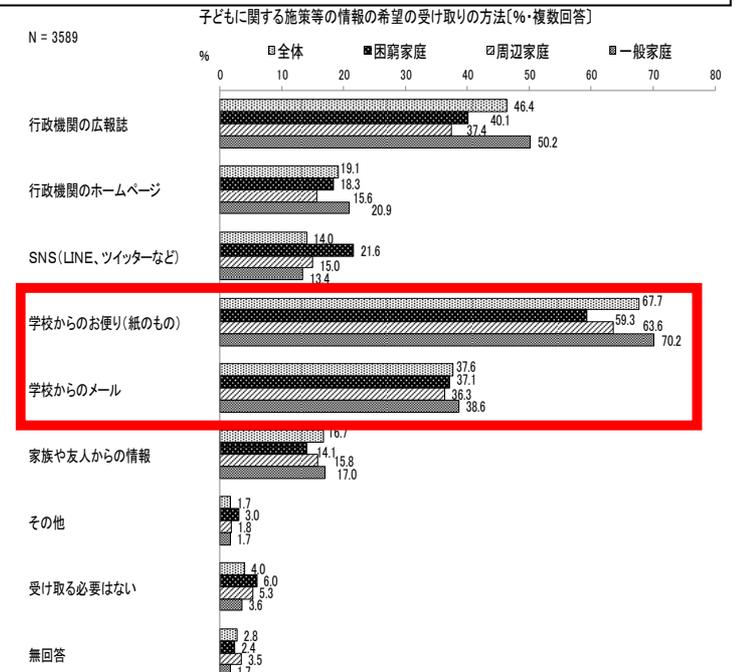
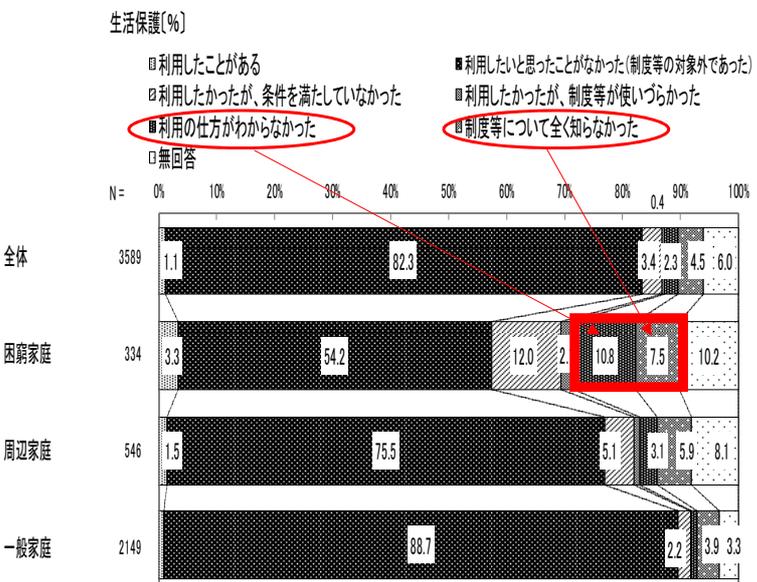


☆子どもの貧困の現状

注目⑥：貧困対策が支援に必要な家庭に届いているか

[支援施策の利用状況及び施策情報の入手先 (保護者)]

- **生活保護制度についての利用を尋ねたところ、困窮家庭の18.3%が「利用の仕方がわからなかった」、「制度等について全く知らなかった」と回答**
- 子育て家庭にとって、子どもに関する施策の情報入手先は、学校からのお便りやメールが多い。





[相談窓口の利用状況（保護者）]

○ 公的な相談窓口の利用状況を尋ねたところ、**困窮家庭では「相談したかったが、抵抗感があった」「相談する窓口や方法がわからなかった」**の回答が一般家庭に比べて多くなっている。

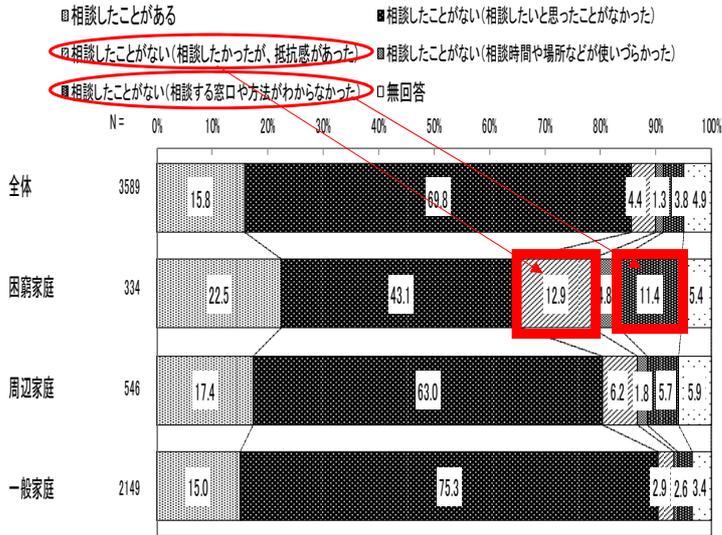
「相談したかったが抵抗感があった」

- ・市役所・町村役場の窓口 **困窮家庭：12.9%** > 一般家庭：2.9%
- ・民生委員・児童委員 **困窮家庭：11.1%** > 一般家庭：1.8%

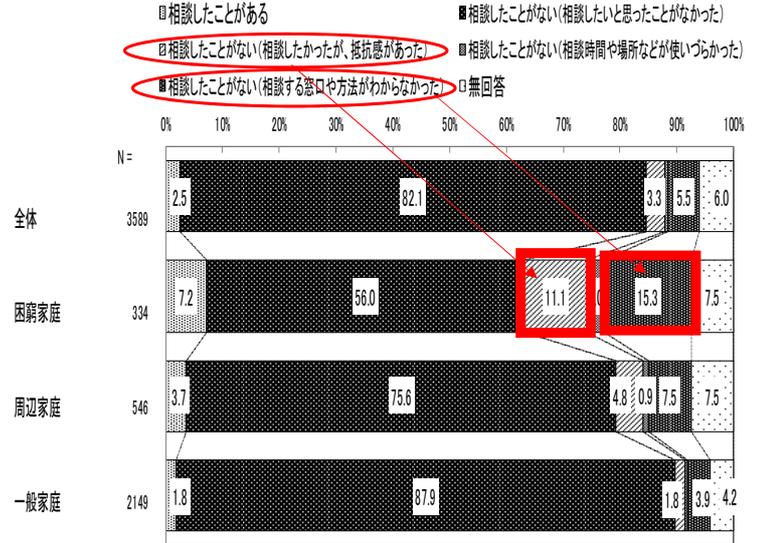
「相談する窓口や方法がわからなかった」

- ・市役所・町村役場の窓口 **困窮家庭：11.4%** > 一般家庭：2.6%
- ・民生委員・児童委員 **困窮家庭：15.3%** > 一般家庭：3.9%

市役所・町村役場の窓口[%]



民生委員・児童委員[%]



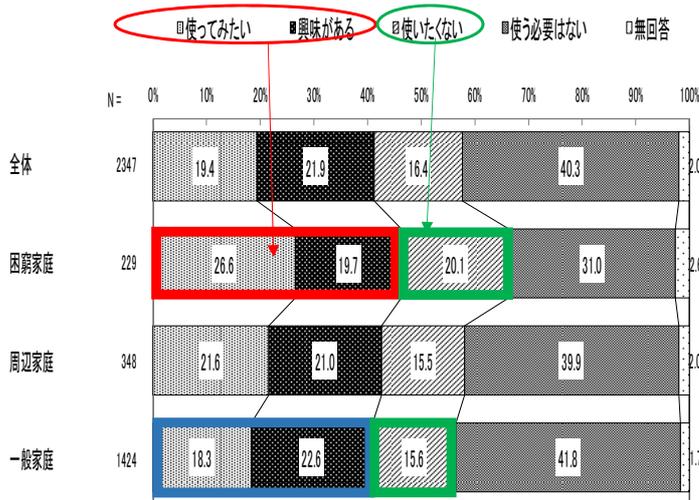
[サービスや支援策の関心（子ども）①]

○ 子どもにサービスや支援策への利用希望や興味を尋ねたところ、一般家庭、困窮家庭ともに「使ってみたい」「興味がある」がそれぞれ20%前後回答されている。困窮家庭では「**なんでも相談できる場所**」について「使ってみたい」「興味がある」の回答が多くなっている。

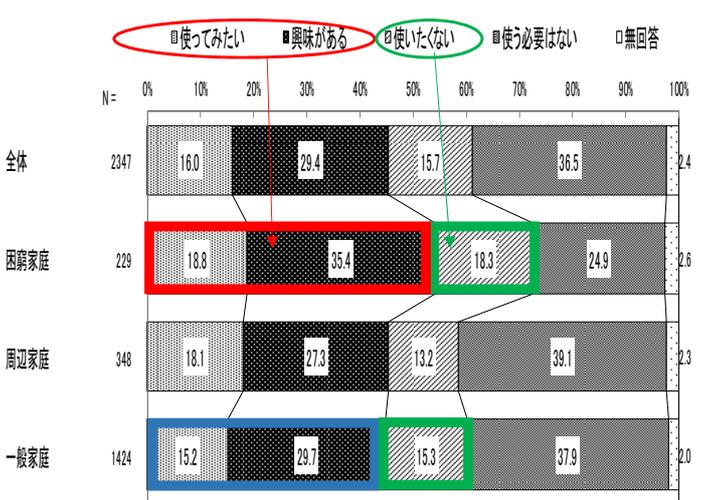
「使ってみたい」「興味がある」

- ・平日の放課後の居場所 **困窮家庭：46.3%** > 一般家庭：40.9%
- ・なんでも相談できる場所 **困窮家庭：54.2%** > 一般家庭：44.9%
- ・夕ご飯をみんなで食べられる場所 **困窮家庭：45.4%** > 一般家庭：38.0%
- ・勉強を無料で見てくれる場所 **困窮家庭：52.0%** < 一般家庭：53.3%

平日の放課後に夜までいることができる場所[%]



なんでも相談できる場所[%]



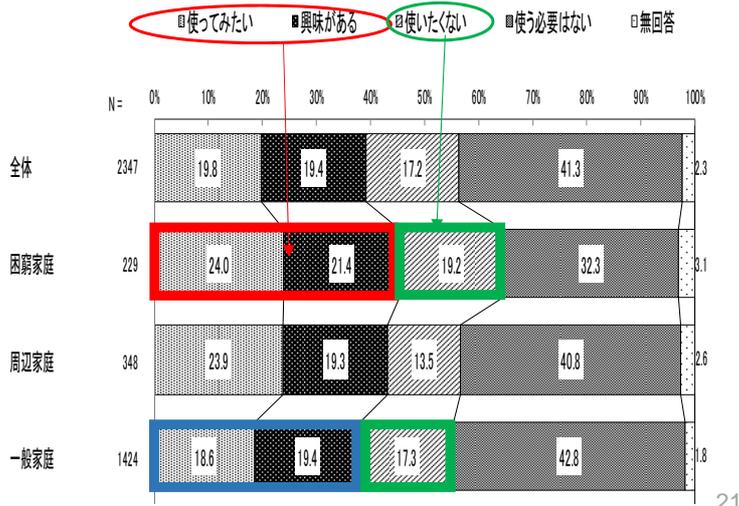
[サービスや支援策の関心（子ども）②]

- 一方で、一般家庭、困窮家庭ともに「使いたくない」との回答も15～20%程度あり、**サービスや支援策への抵抗感が表れているものと考えられる。**

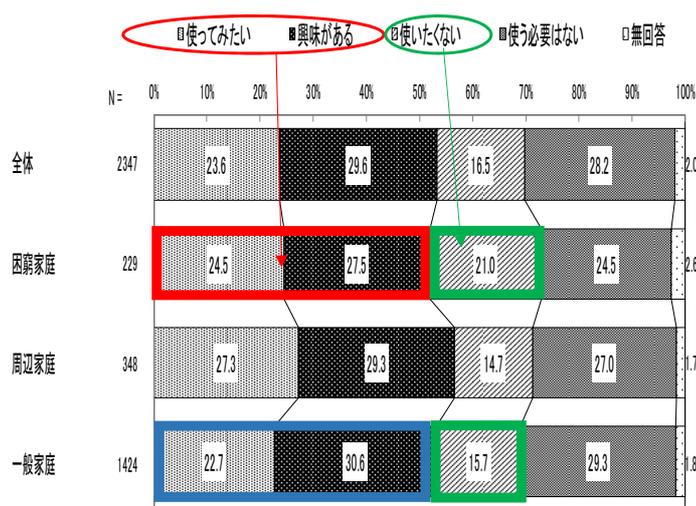
「使いたくない」

- ・ 平日の放課後の居場所 **困窮家庭：20.1%** > 一般家庭：15.6%
- ・ なんでも相談できる場所 **困窮家庭：18.3%** > 一般家庭：15.3%
- ・ 夕ご飯をみんなで食べられる場所 **困窮家庭：19.2%** > 一般家庭：17.3%
- ・ 勉強を無料で見てくれる場所 **困窮家庭：21.0%** > 一般家庭：15.7%

家の人がいない時、夕ご飯をみんなで食べられる場所(%)



大学生のボランティアが勉強を無料でみてくれる場所(%)



☆ 調査結果の詳細

調査結果の詳細（報告書）は長野県公式ホームページでもご覧いただけます。

- 長野県公式ホームページ

<https://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/kyoiku/kodomo/shisaku/290901.html>

または

長野県 生活実態調査

検索

